いじめ早期発見のための気づきリスト（学校用）

（本気づきリストの活用例）
- 個別面談や長期休業明け、子どもの様子が気になった時に、担任等が子どもの変化を具体的に把握するために使用
- 定期的に子どもの様子を確認し、記録として残すことで兆候を把握

対象児童生徒名：

記入日：　　　　年　　　月　　　日（　　　）

子どもの様子

【学校生活】
- □　遅刻や早退、欠席が増えた
- □　体調不良を訴えて保健室に行くことが増えた
- □　授業中に寝るなど集中していないことが増えたり、成績が下がったりした
- □　忘れ物や失くし物が増えた
- □　昼食を食べなかったり、残したりしている
- □　部活動を休んだりやめたいと言ったり、進路変更したいと言ったりする

【友人関係】
- □　一緒に過ごす友人が変わった
- □　休み時間に１人で過ごすことが増えた
- □　周囲の様子を気にするようになった

【本人の様子】
- □　落ち込んだり、はしゃいだり、感情の起伏が激しくなった
- □　何かと教職員に寄ってくるようになった
- □　頻繁に持ち物が替わるようになった
- □　スマートフォンやＳＮＳをひどく気にするようになった
- □　服が汚れていたり、理由のはっきりしないあざや擦り傷がある

【その他気になること】

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

子どもの様子が気になったら

１．学校内で共有し、様々な立場の教職員が本人の様子を丁寧に観察する。
２．本人の様子を保護者に伝え、家庭でも見守りを依頼して状況を共有する。
３．本人との面談を行い、悩みや不安、いじめについて聞き取って確認する。
４．本人との信頼関係保持に配慮しつつ、面談の様子について保護者と共有する。
５．面談等でいじめの被害申告があったり、いじめの情報を得たりした場合には、原則として、その日のうちに校長と関係教職員が情報共有し、当面の対応を決定して直ちに取り組む。

※本リストは「いじめ早期発見」のためのものですが、児童虐待や抑うつ状態の兆候とも重複する可能性がありますので留意願います。